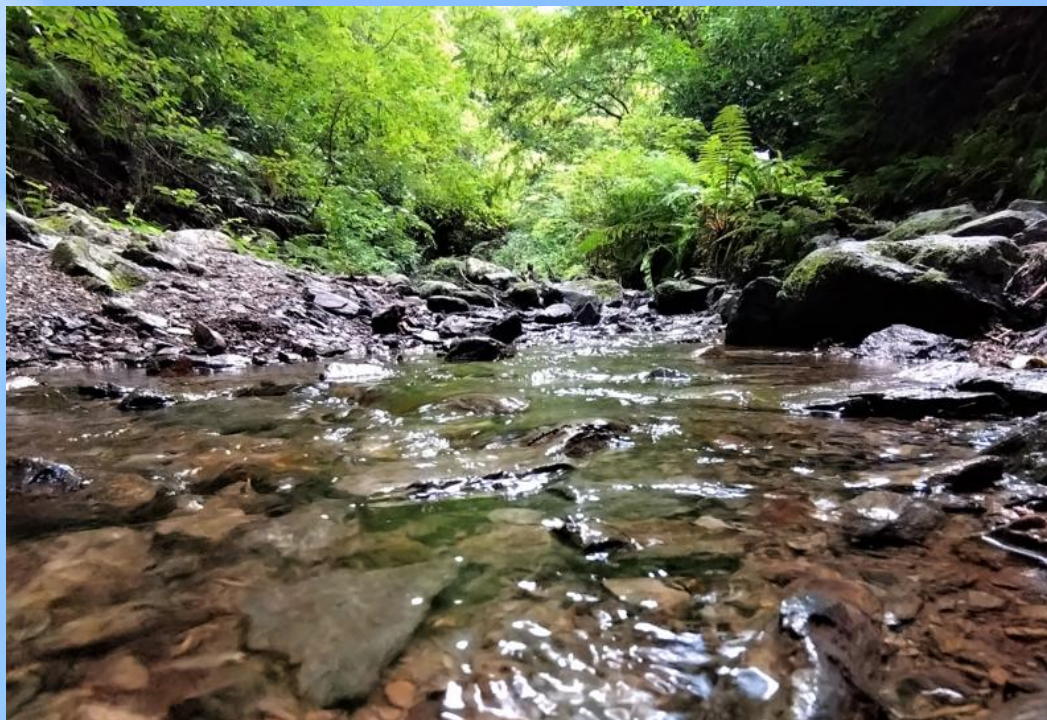


関東支部報

2025.8.27
夏季号



目 次

1. 巻頭言 関東支部 副支部長 布施 孝志 ----- P 1
2. 伝 承 「足利フラワーパークと栗田美術館」
星 埜 由 尚 ----- P 2 - 4
3. 特 集 「A I の活用」
アジア航測(株) / (株)トラス ----- P 5 - 7
4. ニュースラウンジ
「国土地理院が3次元点群データを公開開始」 ----- P 8
「既存の航空レーザ測量を用いた埋蔵文化財の
把握にかかる利用マニュアル」 ----- P 9
5. 会社紹介／得意技術紹介 Terra Drone(株) ----- P 10 - 11
6. 研究室紹介 茨城大学 教育学部 社会科教育教室 ----- P 12 - 14
7. 本の紹介 ----- P 15 - 16
8. 支部報告 関東支部業務報告会の概要報告 ----- P 17 - 29
9. 支部報告 業務報告会講演会 ----- P 30
10. 編集後記 ----- P 31

巻頭言

(公社) 日本測量協会 関東支部
副支部長 布施孝志

今年は、これまで以上に異常な暑さの日が続いています。史上最も暑い6月だったとも報じられました。北海道でも記録的な暑さとなっています。7月に入っても、猛暑日100地点越えなど、全国的に、まだまだ危険な暑さが続いています。

さて、気象関係でも地理空間情報が様々な活用されています。気象衛星ひまわりの画像は日頃目にするものですし、天気予報において衛星観測データが用いられていることは、よく知られています。さらには、地球温暖化予測などに温室効果ガスの衛星観測データが利用されるなど、気候予測も進められているところです。また、高分解能かつ高いリアルタイム性をもつレーダも開発・運用されており、例えば、線状降水帯の予測精度向上なども期待されています。最近の天気予報アプリでの雨雲の予測機能の性能が、大きく向上したと思われる方も多いかと思います。現地作業前のチェックなどにも役に立ちます。これらの観測データにおいては、インターネット上で公開されているものも増えており、皆さんも確認することができます。



一方で、この暑さに対して身を守るために、私たちも対策を講じなければなりません。熱中症に関するニュースも、日常的に報じられるようになりました。このような状況に対して職場における熱中症対策の強化を図るべく、先般、労働安全衛生規則が改正され、6月1日から施行されました。この規則に基づき、熱中症の重篤化を防止するための「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が、事業者には義務付けられました。皆様の会社においても、内勤・外勤・作業現場を問わずにご対応いただいているところかと思います。測量技術者にとって、作業現場は非常に重要な場所ですが、時には過酷な環境にもなりかねません。いかに技術者を守っていくかという点でも、非常に関係の深いものです。

この暑さ、残暑も含め長期化するとの予想もあります。くれぐれもご自愛ください。



足利フラワーパークと栗田美術館

日本測量協会 顧問 星 埜 由 尚

足利フラワーパークは、足利市の早川農園が平成9年に現在の地に移転するときに大藤4本を移植して開園した花のテーマパークである。四季折々花の競演と言ってよい花園であるが、4月から5月にかけて満開となる大藤が特に有名で、世界的にも有数の藤の花園として知られ、外国人の観光客も多い。この5月に出かけたが、園内に入ると藤が満開に近く、その他様々な花、特に躑躅が綺麗でまさに百花繚乱であった。4本の大藤のほか、藤の棚が随所にあり、紫、白、黄色と朧の色を棚引かせ、幻想的でもある。八重の藤もあり、藤のスクリーン、白藤の滝など趣向をこらした見せ方もしている。

元々この地は沼があり、湿地であったところを埋め立てて造成した。そのため、園内には池が多く、池の中に花壇を作り、池を巡って周遊できるように設計されている。園内は広さ約2万5000坪あり、入場料は、花の開花状態により変わる。樹齢160年を越える大藤の移植には、大変な苦労があったようで、移植方法の検討や準備を含めて5年の歳月を要して平成8年に移植され、園内には350本以上の藤がある。

栗田美術館は、足利出身の実業家で衆議院議員をつとめた栗田英男が昭和43年に創設した鍋島・伊万里のみを収集品とする美術館である。栗田英男は、衆議院議員落選後政界を引退して、総会屋の巨頭となった人物で、一癖も二癖もあったようであるが、田中角栄を呼び捨てにできる数少ない人間だったそうである。鍋島、伊万里の収集には大変な熱の入れようであったと言われており、そのために使った資金は500億円を超えていたと言われていいる。

栗田美術館は、現在一般財団栗田美術館の管理運営の下にあり、栗田英男が足利市内にあった自宅を寄付したものである。足利フラワーパークに隣接し、小高い山の斜面の約3万坪の敷地に、本館のほか、歴史観、資料館、陶磁会館などの建物が散在している。それらの建物に、鍋島、伊万里の名品が展示され、質量ともに世界に誇る美術館である。敷地内には、新田義貞が建立したと言われる開山堂が移築されている。明治天皇が平安を祈願した勅願所でもある。また、栗田英男の母親が信仰したという石仏が集められ供養されている。



Traditional 伝承

政界の巨魁として疑惑にも顔を出し、総会屋としても恐れられた人物と鍋島、伊万里の収集家とは全く異なる印象であるが、そのような人物だからこそ心の闇の葛藤があったのだろう。栗田美術館には、栗田英男の独白的文章が随所に掲げられているが、栗田英男その人の人物像や事業、鍋島・伊万里の収集過程についての解説はない。



地理院地図を一部加工

栗田美術館

足利フラワーパーク



Traditional 伝統



足利フラワーパーク

栗田美術館本館



石仏

開山堂



アジア航測株式会社

AAS-DX推進部 AAS-DX推進室

小川 優恵



アジア航測株式会社

社内業務における生成AIの活用を推進



当社は、2024年4月より社内向け生成AI“α GeAI(アルファ・ジーイー・エーアイ)※1”の運用を開始しました。Microsoft Azure OpenAI Service※2を基盤として構築されたもので、Retrieval Augmented Generation機能(以降RAG機能という)を搭載し、一般的な生成AIの回答に加えて専門家のような回答も可能です。安全な環境下でAIを活用することで、情報の外部漏洩リスクを回避しながら、社内業務の効率化と知的生産性の向上を図っています。

①導入のねらい

α GeAIは、当社の中期経営計画2026で掲げるAAS-DX 5か年計画において定められている3要素『意識改革』『仕組みづくり』『技術革新』の推進を目指しています。

そのためには、会社全体として今まで以上に知的生産性の高い業務へのリソース配分が必要不可欠となります。そこで、日々の業務を図1のように4つの領域に分類し、第1、3、4領域の業務を自動化・省力化することで、第2領域『知的生産性の高い領域』へのリソース配分を実現するためのツールの一つとなることをα GeAI導入の狙いとししました。



図1 日々業務の4象限

②利用状況と主な利用シーン

2025年6月現在、全従業員の約6割がα GeAIを利用し、主な利用事例は文章作成支援、文書要約、プログラム作成支援、課題対策の検討の4つに分類されます。

例えば、提出先や文字数などの条件に応じた文章の素案作成や、議事録・論文の要約、ソースコードの生成・添削、他社事例を参考にした施策の立案など、業務の質とスピードの両面で貢献しています。

③今後の展開

今後は、RAG機能による過去の文書を活用した提案書等の文書作成支援にもα GeAIの利用を検討しており、目的や条件を入力することで、構成案や文案の自動生成が可能となるよう試行を進めています。これにより、提案業務の質とスピードの向上が期待され、さらなる知的生産性の向上につながると考えています。

※1 αGeAIは、DAIVERSE（株式会社KMSがAzure OpenAI Serviceを活用して開発した、法人向け生成AIソフトウェアです。）を当社用にカスタマイズしたものです。なお、αGeAIのロゴはアジア航測の商標登録です。

※2 Azure OpenAI Serviceは、マイクロソフトが提供する多様なクラウドサービスを利用できる「Microsoft Azure」において、OpenAI社が開発・提供する多くのAIモデルをセキュアな環境下で利用可能なマネージドサービスです。



株式会社トーラス
代表取締役 木村 幹夫



AIと独自の登記ビッグデータで不動産ビジネスを可視化

株式会社トーラス

株式会社トーラスは、独自に収集した膨大な登記簿ビッグデータをAI技術を活用して様々な便利な情報サービスにしています。革新的なソリューションを提供する企業として、不動産・建設・金融業界を中心に幅広い企業を支援しています。

AIを活用した不動産データ解析ソリューション

不動産登記データを生成AIに自動入力することで、不動産会社の観点から具体的な活用方法を10パターン提案するシステムを開発しています。これにより、従来では見落としがちな不動産の潜在的価値や活用可能性を効率的に発見できます。特に意志決定の初期段階において、複数の選択肢をもれなく提案することで判断の質を高めるものとして、導入企業が増加中です。

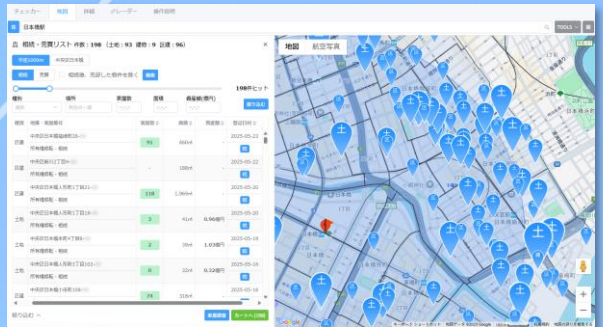
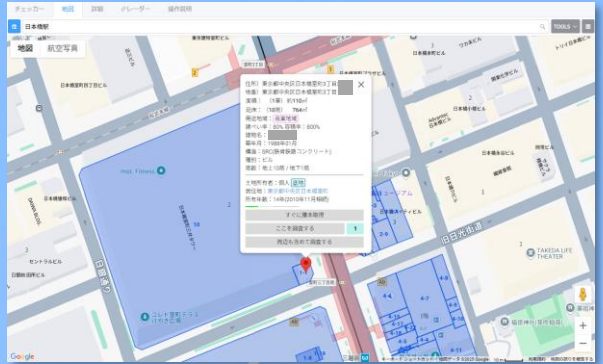


競合他社分析システム

不動産ビジネスにおいては、競合の存在は極めて重要です。AIを活用した分析ツールを提供し、一体どこが競合になり得るかを自動で判定・回答するシステムを構築しています。市場分析の精度向上と意思決定の迅速化を実現します。

カスタムAIソリューション開発

お客様の特定のニーズに合わせたAIシステムの開発を行い、不動産・建設・金融業界特有の課題に対して最適化されたソリューションを提供しています。



技術的特徴

トーラスの強みは、最新の生成AI技術と不動産・建設・金融・測量業界への深い理解を組み合わせることにあります。大量の謄本データや市場情報を効率的に解析し、従来では発見できなかった投資機会やリスクを可視化します。

また、AIによる競合分析では、膨大な企業データベースを瞬時に照合し、市場参入の可能性を客観的に評価することで、戦略的な意思決定を支援しています。

今後の展望

AIと生成AI技術の急速な進歩を背景に、不動産・測量業界においてもさらなるデジタル化が期待されています。私たちは、謄本データ活用の自動化、競合分析の高度化、そして業界特化型AIアシスタントの開発などの分野で、お客様の業務革新を支援する存在として成長を続けてまいります。

株式会社トーラス ホームページ <https://www.torus.co.jp/>

「国土地理院が3次元点群データを公開開始」

国土地理院では、点密度1㎡あたり4点以上の3次元点群データを令和7年2月19日より、福島県沿岸部について一般公開を開始しました。この点群データは4月1日の標高改訂前のデータですが、今年度末には標高改訂を反映したデータの提供を予定しています。

【概要】

点群データとは、国土地理院が実施した航空レーザ測量により得られた計測点の集合データです。地表面のほか建物や植生等を含んだ表層面の高さのデータであり、それぞれの計測点は緯度、経度、高さのほか、色情報、レーザの反射強度、簡易的な分類(地表、水部、その他)の情報を持っています。そのため、従来のメッシュ標高データと比べ地物を含めたより精緻な分析・解析等が可能です。

【特徴】

点群データの取得密度は1㎡あたり4点以上です。

点群データの各計測点の高さ精度は、25cm程度です。具体的には25km²ごとに1点設置する調整点において、各調整点の標高値とその調整点から一定範囲に含まれる各計測点の標高値との較差を計算し、較差のRMS誤差が25cm以内であることを確認しています。1ファイルは数100MB～数GBです。

※公開した範囲は、標高改定(4/1予定)前のデータです。

【仕様】

データ形式はLAS 形式(Ver.1.2 Point Data Record Format 3)を圧縮したLAZ形式です。データは3次メッシュのファイルを2次メッシュ単位で提供します。

【価格】

2次メッシュ 13,900円(消費税込)

【ファイル仕様書等】

[ファイル命名規則\[PDF形式:41KB\]](#)(令和7年2月19日作成)

[ファイル仕様書\[PDF形式:224KB\]](#)(令和7年2月19日作成)

[メタデータ\[ZIP形式:2KB\]](#)(令和7年2月19日作成)

【その他】

国土地理院では、測量法第27条第3項(測量成果の公開)の規定に基づいて、測量成果の閲覧を行っています。

点群データについても、国土地理院の本院(情報サービス館)及び関東地方測量部並びに各地の窓口(地方測量部・支所)において、ディスプレイで閲覧することができます。

点群データを複製又は使用して御利用される場合、測量法第29条又は30条に基づく申請が必要になります。[手続きの詳細はこちらのページを御確認ください。](#)

【点群データのご購入、お問い合わせ】

(一財)日本地図センター 情報サービス部 ネットサービス課

〒153-8522 東京都目黒区青葉台4-9-6 TEL:03-3485-5416

URL:<https://net.jmc.or.jp/mapdata/3d/tengun.html>

関連URL : <https://www.gsi.go.jp/gazochosa/tengun.html>

(記:日下部 亮治)



「既存の航空レーザ測量データを用いた 埋蔵文化財の把握に係る利用マニュアル」

令和7年3月に文化庁から公開されました。本マニュアルは、埋蔵文化財包蔵地の把握・周知化の徹底と遺跡地図の高精度化に向けて効果的と考えられる、航空レーザ測量データを用いた埋蔵文化財の分布調査の実施から遺跡地図作成までのプロセスに係る技術的内容をまとめたものである。具体的には、航空レーザ測量データの入手→微地形表現図の作成と現地踏査用図面への加工→現地踏査の実施→遺跡地図の作成・更新の手順である。埋蔵文化財調査の全体の流れについては『発掘調査のてびきー集落遺跡発掘編ー』（文化庁文化財部記念物課2010）に従うものとして、本マニュアルは最も基本的な作業である「把握」に係る調査（分布調査）の技術的なてびきとして位置づける。この手法を用いることにより、地表に痕跡をとどめる埋蔵文化財が効率的に把握可能になるとともに、遺跡地図の高精度化にも寄与するものとする。また、本マニュアルを用いて遺跡把握を進めることで、予め埋蔵文化財が存在する可能性がある土地の開発計画からの除外や、予期せぬ発掘調査によるサンクコストの発生の回避も可能となるなど、開発事業と埋蔵文化財保護との両立が図られることが期待される。

本マニュアルは、3部構成をとる。第1部では、本マニュアルの埋蔵文化財保護行政における位置づけを示すとともに、既存の航空レーザ測量データを利用して行う埋蔵文化財の分布調査の方法について、手順や内容の概要について取りまとめた。第2部では、令和5～6年度に行った調査研究の成果を取りまとめた。本マニュアルの分布調査での利用に資するため、調査の準備から成果の取りまとめまでの作業の流れに従い、個々の工程における課題も含めて整理した。第3部では、参考資料として航空レーザ測量に係る専門的な知識や発注の際の仕様書等について示した。

関連URL：<https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/maizo.html>

(記:市川 弘)



会社紹介

Terra Drone株式会社



テラドローンは、「Unlock “X” Dimensions（異なる次元を融合し、豊かな未来を創造する）」というミッションを掲げ、測量・点検・農業分野向けに、ドローンの開発及びソリューションを提供しています。また、ドローンの安全かつ効率的な運航を支援する運航管理システム（UTM）の開発・提供や、海外を対象にした空飛ぶクルマ向けのUTM開発にも注力しています。

世界のドローン企業を対象とした『ドローンサービス企業 世界ランキング』（Drone Industry Insightsによる）では、産業用ドローンサービス企業として2019年以降連続でトップ2にランクインし、2024年は世界1位を獲得しています。

土木に、新たな常識を

我々は土木の現場に向き合い、現場に本当に価値のあるソリューションを提供していきます。
 業界を牽引する技術力・信頼できる品質のサービスの提供を通じて、
 顧客の新たな挑戦への手助けをし、業界の技術力の常識の水準を上げていきます。
 そして、サービスの提供を通じて得た現場のニーズをスピード感を持ってプロダクト化し、
 営業・サポートを含めた総合力で新たな技術を現場に素早く普及させることで、
 土木に、新たな常識を作っていきます。

新たな常識を作る道のりで、メンバーが成長し、次の新たな常識を生み出す、
 この繰り返しによって、次はどんな常識を作ってくれるのだろうとワクワクする、そんな事業を目指します。

当社の測量事業では、ドローンや最新の3次元測量の技術を活用し、「Terra Lidar」シリーズをはじめとする各種サービスを提供しています。産業用UAVレーザのハード・ソフトウェアの自社開発・販売に加え、ICTやBIM/CIMを活用した測量支援を一気通貫で行えることが強みです。

「土木に、新たな常識を」 というビジョンを掲げ、
 スピード感を持って新技術を製品化し、現場への迅速な導入・普及を目指しています。

HP <https://terra-drone.net/>

お問い合わせ：<https://terra-drone.net/contact/>



Terra Drone株式会社



国産UAVレーザスキャナ「Terra Lidar シリーズ」

「Terra Lidarシリーズ」は、Terra Droneが自社開発した国産UAVレーザスキャナです。お客様の様々な用途に応じて最適な機種をお選びいただけるよう、3機種を取り揃えております。ドローン飛行後は、計測したデータを専用クラウド「Terra Cloud」にアップロードするだけで完了。複雑な処理を必要とせず、大幅な業務効率化を実現できます。また、導入から運用、さらにはドローン測量案件の受注支援まで、一気通貫のカスタマーサポート体制を整えており、長期的にご活用いただけるサービスを提供しています。

空陸両用
「Terra Lidar Dual」



高性能×低価格
「Terra Lidar R」



RIEGL社製スキャナ搭載
「Terra Lidar X」



高精度ハンディ型レーザスキャナ「Terra SLAM RTK」

「Terra SLAM RTK」は、ネットワーク型RTK測位に対応した高精度ハンディ型レーザスキャナです。国土交通省の新技术情報提供システム（NETIS）に登録されており（登録番号：KT-250016）、DrogerのGNSS測量機との併用により、絶対精度3cm以内・相対精度1cm以内の点群取得が可能です。

公共測量や出来形計測への対応はもちろん、設備点検や建築分野など幅広いニーズに対応することができます。



屋内点検用ドローン「Terra Xross 1」（2025年1月発売）

自社開発の国産ドローンで、ビジュアルセンサーとLidarを搭載、暗所や粉塵環境でも安定した飛行が可能です。従来の市場相場と比べて、約3分の1という低価格で提供しています。

さらに、クラウドサービス「Terra Xorss Cloud」と連携することで、取得した点群データや写真を一括で管理・共有でき、現場での情報活用を迅速かつ効率的に行えます。



HP <https://terra-drone.net/>

お問い合わせ：<https://terra-drone.net/contact/>



研究室紹介

茨城大学教育学部 社会科教育教室

教科内容に関わりのある地理学、日本史学、法律学、倫理学などの諸分野と社会科教育学を専門とする教員による研究室があります。
ここでは、社会科教育研究室と日本史研究室の学生を主体とする特色ある活動について紹介します。

児童生徒地図作品展の開催（村山朝子 名誉教授）

○いばらき児童生徒地図作品展

いばらき児童生徒地図研究会が主催するこの作品展は、毎年11月下旬から12月上旬にかけて茨城大学図書館展示室で開催されます。会場が茨城大学になってから、会場設営や表彰式の企画・運営は、研究室の学生が中心になって行っています。教員を目指す学生にとっては、直に子どもたちの作品、そして作成者と触れあうことができる貴重な機会にもなっています。

茨城県内の小中学生を対象に募集した作品の中から、研究会会員による審査を経て約50点の作品が展示されます。展示のレイアウトは毎年学生が考え、教室の学生の協力も得て、半日ばかりで設営を行います。また、表彰式の司会を担当し、式後の受賞者による作品紹介は学生らの企画と工夫で進められ、毎年参加者とともに温かい雰囲気の中で受賞者をお祝いしています。

小中学生が身のまわりの環境や地域の姿を自ら観察・調査し、それらを地図に表現した地図作品は、テーマも地域も実にさまざまです。身近な地域を野外調査して手描き地図に表現した作品や、市町村や県を対象に特定の事象の分布を示して考察した作品、防災、交通、都市問題といった社会性のあるテーマから、子どもならではの着眼点や考察が光る力作が揃います。いずれも、子どもたちが主体的に地域と関わり、彼らが捉えた「いま」「ここ」を地図を通して表現しています。ぜひ会場へ足をお運びいただき、実物から子どもたちのパワーを感じてください。

○地図作品からみえる現代の子どもたちの地図活用力

近年、デジタル地図をベースマップに利用する作品が増加傾向にあります。カーナビやスマートフォンで幼い頃から地図に親しむ現代、学校でもウェブ上の地理院地図やGoogle Earthといったデジタルツールの活用が増えていることも歓迎すべきことです。一方で、手描きの地図作品を含め、応募作品の中にはスケールが明記されていないものが少なくない点が気になります。デジタル地図は瞬時に拡大縮小ができるため、紙地図に比べてスケールや方角といった概念を意識する機会が少なくなり、その結果、これらの基礎的な地図スキルが身につくにくくなっているのではないかと懸念しています。

測量の専門家である皆様には、このような現代の子どもたちの地図との関わり方について、日頃から現場でご尽力されている視点から、ぜひご意見や、これからの地図教育へのお知恵をお寄せもいただければ幸いです。



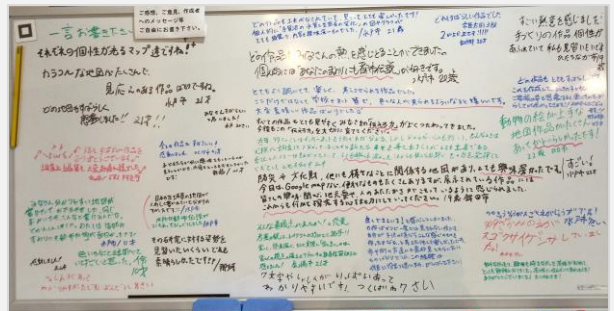
展示会場の設営



令和5年度「測量の日」功労感謝状を
国土地理院から贈呈されました



茨城大学図書館1階展示室会場入口



ホワイトボードに寄せられた来場者のコメント



表彰式会場（図書館ライブラリーホール）



表彰式参加者全員で記念撮影

令和7年度 第26回

いばらき児童生徒地図作品展

今年も作品を募集します!!

あなたが住んでいる地域や市町村、県のことについて、調べてわかったことや考えたことを、地図にまとめてみませんか。地図作品にすると、あなたの思いをたくさんの人に伝えることができます!

みなさんの応募をまっています!

※応募要項は、国土地理院のホームページをご覧ください。

※応募する、参加記念品がもらえるように入賞すると、賞状とともに入賞記念品がもらえますよ!

※入賞・入選作品は、11月下旬～12月上旬に茨城大学図書館展示室で公開される作品展に展示されます。国土地理院のホームページにも掲載予定です。

昨年度の作品展の入賞作品から

昨年度の作品展と表彰式の様子

テーマ:身のまわりの環境や地域に関すること
(生活、自然、防災、福祉、交通、歴史、まちづくりなど)

応募方法:学校ごとにとりまとめる応募、個人での応募、いずれも可能です。
くわしいことは先生や保護者の方に確かめてください。

応募期間:2025年9月1日(月)～9月30日(火)

くわしくはウラをみてね

問合せ先: いばらき児童生徒地図研究会 事務局
(茨城大学図書館展示室 2051 室)
TEL: 03-5213-2051 (代表)

本年度も地図作品展が開催されます。
応募期間は9月1日から30日です。
詳しくは国土地理院関東地方測量部：
いばらき児童生徒地図作品展
<https://www.gsi.go.jp/kanto/ibaten.html>



過去の入賞作品を高精細画像で見られます。
いばらき児童生徒地図研究会：
いばらき子ども地図鑑
<https://www.child-map.jp/>



日本測量協会関東支部様には、いばらき児童生徒地図研究会会員として、これまで応募作品の審査や広報活動に多大なるご尽力を賜るとともに、協賛金による温かいご支援をいただいていたこと、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

(いばらき児童生徒地図研究会会長 村山朝子)

検地再現プロジェクト（日本史研究室 千葉真由美 教授）

日本史研究室では、日本史の全時代を対象に、史料調査や解読を踏まえた歴史研究に取り組んでいます。特に2019年からは、歴史事象に数学や技術の知識を融合して、近世の検地を再現するプロジェクトを進めています。文献史料を検討して検地の道具を製作し、製作した道具を用いて実際の農地で検地をすることで、これまで明らかにされてこなかった事実に向っていくものです。

近年は農学部の方々のほか、常陸大宮市内や水戸市内の農家の方々の農地を借りて、広大な土地での検証やドローンによる撮影も行ってきました。さらに歴史を体験的に学ぶ学習として、茨城県内の学校で検地を題材にした授業実践も始めています。意欲的な院生や学生の力によって、また日本史研究室以外のメンバーの協力も得て、毎年バージョンアップをしながら検地再現、検地実践に取り組むことができます。



検地道具の製作



水戸市内での検地再現



小学校での検地実践



Introduction of the book

～本の紹介～

関東支部報 No.24 夏季号

・ 安藤優一郎監修『古地図のひみつ-読みかた・楽しみかたがわかる本-』メイツユニバーサルコンテンツ 2023年10月25日 A5判 1,630円+税

→ 渡邊 晃著『浮世絵でたどる!-江戸の凸凹地形散歩-』山川出版社 2023年12月10日 A5判 2,000円+税 は『SURVEY』6月号68頁の書評参照。

古地図と浮世絵を読み解く事が出来て、地理院地図で現在と比較しながら“今と昔を散歩”してみたいでしょうか。

・ 岸 由二著『「流域地図」の作り方-川から地球を考える-』ちくまプリマー新書 2013年11月10日 新書判 800円+税

河川の流域に沿って地域を考え地図化しようとする活動の記録です。

・ 歴史ミステリー研究会編『封印された日本の離島』彩図社 2013年7月19日 文庫判 619円+税

日本の離島は6,852島?14,125島?島の基準や計測方法などにより異なりますが、有人島は256島とのこと（国土地理院ホームページなど）。島々による不思議探検の興味深い話が満載です。

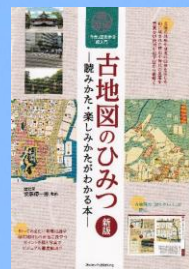
・ 佐藤 純著『頭痛、めまい、関節痛 自分で治す気象病』宝島社 2024年12月26日 A4判 1,100円+税

朝起きたら何となく身体がだるい、関節が痛いなどその日の天気によって影響を受ける症状は気象病、季節病、天気痛などと言われているそうです。心当たりの方は自分で治す方法を実践して日々を健康に過ごしたいものです。

・ CAMMOC著『ラクして備える ながら防災-フェーズフリーな暮らし方-』辰巳出版 2024年9月1日 A5判 1,500円+税

防災士・キャンプインストラクターの主婦三人組がキャンプで養った知識から日常生活での減災に役立つ知識をわかりやすく解説しています。

* 既に紹介済みの書籍がありましたらお詫び致します。



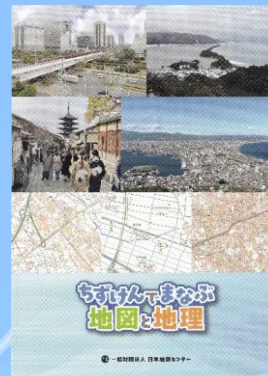
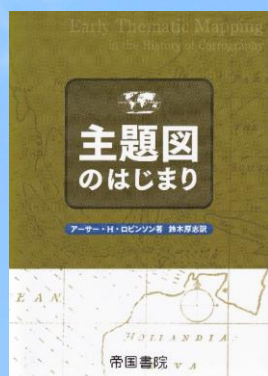
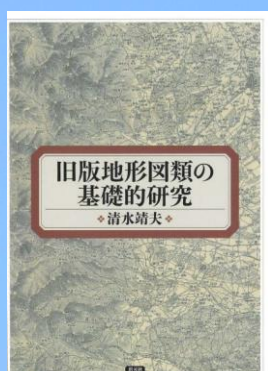


Introduction of the book

～本の紹介～

関東支部報 No.24 夏季号

本の紹介-2 興味深い地理学・地図学書籍が5冊も出版！



地理学・地図学を学ぶものにとって5冊もの読みごたえのある書籍が短期間に発行された事があったで
しょうか？
どの書籍も熟読対象です。

左上：日本地理学会百年史編集委員会編『日本地理学の百年』

古今書院 2025年5月21日 B5判 17,000円+税

日本の地理学史としての集大成です。

上中：清水靖夫著『旧版地形図類の基礎的研究』創元社

2025年6月20日 B5判 28,000円+税

多数の鮮明な図版とわかりやすい解説から構成されています。

右上：故齊藤忠光著『地図でみる廃藩置県』東京図書出版

2025年4月12日 B5判 3,000円+税

発行を見ずに亡くなられた著者渾身の名著です。

下左：アーサー・H.ロビンソン著 鈴木 厚志訳『主題図のはじまり』

帝国書院 2025年3月31日 B5判 4,400円+税

地図学の古典的名著に着目し的確な訳による教科書的存在。

下中：（一財）日本地図センター編『ちずけんてまなぶ地図と地理』

同上 2025年5月30日 A4判 1,800円+税

地理院地図・地形図の読図のための理解しやすい必読書。

（記：（一社）地図調製技術協会 伊藤 等）



関東支部業務報告会の概要報告

令和7年7月15日（火）午後1時30分から、日本測量協会 第二研修室（東京都文京区）において支部役員、部会委員の方々が出席し、令和7年度関東支部業務報告会が開催されました。以下に主な報告内容をご報告いたします。

令和6年度事業報告 事業の概要

(1) 技術の普及・向上に資するための事業

① 測量・地理空間情報技術者のためのアドバンスセミナー（無料セミナー）

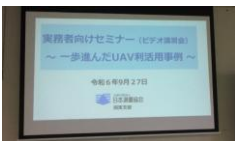
（5月22日 横浜市 53名）



② 第14回現場応用新技術講習会（6月26日 東京都 44名）



③ 実務者向けセミナー（ビデオ講習会・無料セミナー）（9月27日 水戸市 45名）



④ UAVを用いた空中写真測量講習会（10月8日 宇都宮市 28名）



⑤ 三次元点群測量講習会（WEB講習会）（10月30日 長野市 51名）



⑥ 公共測量成果のまとめ方講習会（11月6日 東京都 35名）



関東支部業務報告会の概要報告

- ⑦ ネットワーク型RTK法による基準点測量講習会（11月25日 千葉市 41名）



(2) 研修会、講習会等の事業

- ① 第24回管理職研修会（4月12日 東京都 30名）



- ② 業務報告会及び業務報告会講演会（7月18日 東京都）

- ③ 第35回測量経営者研修会（9月5日 長野市 42名）

(3) 測量・地図に関する広報のための事業

- ① 「くらしと測量・地図展」（6月5日～7日 東京都 約3,900名）
 ② 茨城県内の小・中学生を対象とした「第25回いばらき児童生徒地図作品展」
 （11月26日～12月8日 水戸市）
 ③ 「芝浦工業大学公開講座」にて子ども達への測量実習（11月4日）



(4) 会員への情報提供事業

- ① ウェブ版「e-支部報No.22（夏季号）」を8月に、同「No.23（新春号）」を令和7年1月に発行
 ② メールマガジンの発行（23回）とウェブサイト「測量情報館」の支部のページ、月刊「測量」に講習会案内等掲載

関東支部業務報告会の概要報告

会員の状況（関東支部都県別会員状況）

令和7年3月末現在

都県別	正会員(名)		準会員(名)		特別会員(社)		合 計	
	R6/3	R7/3	R6/3	R7/3	R6/3	R7/3	R6/3	R7/3
茨城県	345	333	0	0	30	30	375	366
栃木県	144	148	0	0	29	29	173	178
群馬県	179	181	0	0	18	18	197	199
埼玉県	517	556	0	1	58	58	575	615
千葉県	309	327	1	2	44	44	354	376
東京都	1,035	1,033	3	5	168	168	1,206	1,210
神奈川県	542	568	2	6	60	60	604	631
山梨県	139	140	0	0	12	12	151	154
長野県	452	463	0	0	31	31	483	494
合 計	3,662	3,749	6	14	450	460	4,118	4,223
増 減	87		8		10		105	

組 織

令和6年度は、次の組織で各種の事業を行った。

役員会

支部長 1名
 副支部長 1名
 幹事長 1名
 幹 事 14名

部 会

総務・広報部会 10名
 教育部会 10名
 社会部会 10名

下記の動きがあった。

- ・役員（幹事）の退任
- ・役員（幹事）の就任

下川 典一 氏(令和6年 5月31日)

大野 牧男 氏(令和6年 6月 1日)



関東支部業務報告会の概要報告

役員会議等

(1) 役員会

開催日	場所	出席者数	報告事項等
令和6年5月17日	日本測量協会 第一研修室	15名	1. 令和5年度事業報告及び収支報告、 技術センター業務報告 2. 令和6年度事業計画及び収支予算、 技術センター業務計画 3. その他
令和6年12月16日	日本測量協会 第一研修室	16名	1. 令和6年度中間事業報告及び収支報告、 技術センター中間業務報告 2. 令和7年度講習会等年間行事 予定（案） 3. その他

(2) 業務報告会

開催日	場所	出席者数	報告事項等
令和6年7月18日	日本測量協会 第二研修室	17名	1. 令和5年度事業報告 2. 令和5年度収支報告 3. 令和5年度技術センター業務報告 4. 令和6年度事業計画 5. 令和6年度収支予算 6. 令和6年度技術センター業務計画 7. その他

部会会議

(1) 総務・広報部会

開催日	場所	出席者数	内容
令和6年5月17日	日本測量協会 会議室	9名	1. 8月発行の「e-支部報No.22」 （夏季号）の掲載内容について 2. 執筆担当割り振り 3. 今後のスケジュール
令和6年11月21日	日本測量協会 会議室	6名	1. 1月発行の「e-支部報No.23」 （新春号）の掲載内容について 2. 執筆担当割り振り 3. 今後のスケジュール

関東支部業務報告会の概要報告

(2) 教育部会

開催日	場所	出席者数	内容
令和6年12月 2日	日本測量協会 会議室	8名	1. 令和6年度講習会等の実施報告 2. 令和7年度講習会等の実施計画案 3. 「芝浦工業大学公開講座」の実施報告 他

(3) 社会部会

開催日	場所	出席者数	内容
令和6年4月18日	日本測量協会 会議室	11名	1. 令和6年度測量経営者研修会について 2. その他
令和6年6月20日	日本測量協会 会議室	10名	1. 令和6年度測量経営者研修会について 2. その他
令和6年12月16日	日本測量協会 会議室	10名	1. 第35回測量経営者研修会について 2. 令和7年度測量経営者研修会について 3. その他

関係団体との共催事業

(1) 「くらしと測量・地図展」

主催：「測量の日」東京地区実行委員会（事務局：国土地理院関東地方測量部）

名称・開催日・場所	内 容
測量の日記念 「くらしと測量・地図展」 令和6年6月5日～7日（3日間） 於：新宿駅西口広場イベントコーナー （東京都新宿区）	テーマ：「楽しみながら地図を読み大智を測る ～時代とともに生きる街～」 ・各構成団体の展示 ・令和6年能登半島地震関連展示特設コーナー ・ミニ講演会（3日間）を開催 入場者約7,500名（入場無料）



関東支部業務報告会の概要報告

(2) いばらき児童生徒地図作品展

主催：いばらき児童生徒地図研究会主催（事務局：国土地理院関東地方測量部）

名称・開催日・場所	内 容
第25回いばらき児童生徒地図図地図展	令和6年9月2日から9月25日までの募集期間に小・中学校から応募のあった484点の中から、10月26に開催された審査会において選定された最優秀賞1点、優秀賞6点、佳作14点に、展示作品30点を加えた計51点の入選作品を展示。
令和6年11月26日～12月8日	入場者552名（入場無料）
於：茨城大学図書館 （茨城県水戸市）	表彰式は同図書館ライブラリーホールにて12月1日に開催。

(3) 芝浦工業大学公開講座

（事務局：芝浦工業大学）

名称・開催日・開催場所	内 容	参加者
21世紀の伊能忠敬になってみる ～地図づくりのプロたちから学ぶ3次元測量～	座学と実習（水準測量、距離測量、UAV測量）について、測量技術センターと関東支部の職員計4人が講師となって指導。	小学4年生、5年生35名とその保護者
令和6年11月4日 於：芝浦工大・大宮キャンパス	当支部より参加者に景品を提供。	

応用測量論文関係業務

（事務局：関東支部）

開催日	会議・作業等	内 容
令和6年4月2日	論文集編集委員会 対面・リモート会議	投稿論文の採否及び論文奨励賞の選定について 第35回応用測量技術研究発表会について
令和6年8月2日	第35回応用測量技術研究発表会	聴講者54名 於：全水道会館 発表20編、論文奨励賞3編、賞状等の授与 応用測量論文集（第35巻）の刊行
令和6年10月1日	令和7年論文募集開始	月刊『測量』掲載、ホームページ掲載、 大学・高専に募集案内通知
令和7年1月31日	論文募集締切	応募数：27編（論文・報告）
令和7年2月18日	論文集編集委員会 対面・リモート会議	各論文の査読担当者の選定 「応用測量論文集Vol.36」の 編集スケジュールの決定

関東支部業務報告の概要

令和 6 年度収支報告

自 令和6 年4月 1日
至 令和7 年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	6 年度予算額 A	6 年度決算額 B	差 額 A - B	摘 要
1. 事業収入	2,752,000	2,518,000	234,000	講習会受講料
2 .雑収入	0	413	△413	普通預金利息
3 .特別行事収入	0	0	0	
4 .支部運営費収入	1,392,000	619,328	772,672	本部助成金
5. 前期繰越収支差額	0	0	0	
合 計	4,144,000	3,137,741	1,006,259	

支出の部

(単位：円)

科 目	6 年度予算額 A	6 年度決算額 B	差 額 A - B	摘 要
1. 事業費	2,454,000	2,135,872	318,128	講習会経費等
2. 管理費	1,548,000	965,383	582,617	会議旅費等
3. 特別行事費	119,000	36,486	82,514	公開講座旅費等
4. 予備費	23,000	0	23,000	
合 計	4,144,000	3,137,741	1,006,259	

(注) 支部専従職員1名（事務局長）の人件費（給料手当、法定福利費、福利厚生費等)及び
支部運営費の一部（水道光熱費、借室料）は、本部経費

関東支部業務報告会の概要報告

令和6年度 技術センター 業務報告

1. 検定業務の状況

(1) 成果検定（基準点）の契約状況

契約件数は昨年度に比べ15件増加した。契約金額は前年度に比べ1,000万円程増加し、予算4,600万円に対し達成率は96%であった。

（表1）

表1 基準点成果検定契約件数、契約金額

	契約件数（単位:件）		契約金額（単位:千円）	
2022	452	差	37,241	差
2023	416	-36	33,876	-3,365
2024	431	+15	44,052	+10,176

(2) 成果検定（地図）の契約状況

契約件数は昨年度に比べ103件増加した。契約金額は前年度に比べ2,300万円程増加し、予算1,600万円に対し達成率は213%であった。

（表2）

表2 地図成果検定契約件数、契約金額

	契約件数（単位:件）		契約金額（単位:千円）	
2022	162	差	35,130	差
2023	99	-63	11,200	-23,930
2024	202	+103	34,078	+22,878

2. 職員の講師派遣等

(1) 地理空間情報セミナー

測量、地理空間情報技術者のためのアドバンスセミナー1会場に1名を派遣した。

(2) 支部技術講習会

公共測量成果のまとめ方講習会1会場に1名を派遣した。

関東支部業務報告会の概要報告

3. セールスプロモーション

(1) 品質管理優秀賞表彰

関東支部と測量技術センターで実施した成果検定のうち、品質管理が特に優れていた9社を表彰した。

有限会社茜測量設計	(足柄上郡開成町)	基準点
株式会社伊藤測量設計	(長野市)	地 図
京葉測量株式会社	(習志野市)	地 図
静岡県土地改良事業団体連合会	(静岡市)	基準点
株式会社総合開発	(成田市)	基準点
株式会社タイヨーエンジニア	(東御市)	基準点
東洋測量設計株式会社	(甲府市)	基準点
株式会社トクサス	(上越市)	地 図
日本工営都市空間株式会社	(名古屋市)	地 図

(2) 会社訪問

講習会等の出張に合わせて、3か所の計画機関と20か所の測量会社を訪問し、情報収集や意見交換を行った。

(3) 公共測量講習会

これまで測量技術センターが主催して年間3か所で開催していた関東管内の公共測量講習会は、令和4年度から関東支部が1か所受け持つこととし、10月23日開催の高崎会場を担当した。

関東支部業務報告会の概要報告

令和7年度 事業計画

令和7年度においては、会員の要望等を踏まえて、技術の向上・人材の確保及び育成並びに会員相互の親和を図ることを目的として、次の事業を行います。

1. 技術の普及・向上に資するための事業

- (1) 公共測量成果のまとめ方講習会の開催
- (2) 現場応用新技術研修会の開催
- (3) 実務者向けセミナー～三次元計測技術の活用～
(ビデオ講習会・無料) の開催
- (4) UAVを用いた空中写真測量講習会の開催
- (5) 測量・地理空間情報技術者のためのアドバンスセミナー
(無料セミナー) の開催
- (6) ネットワーク型RTK法による基準点測量講習会の開催
- (7) 三次元点群測量 (Web講習会) の開催

2. 研修会、講演会等の事業

- (1) 課長・係長クラスを対象とした研修会の開催
- (2) 業務報告会講演会の開催
- (3) 測量経営者を対象とした研修会の開催

3. 測量・地図に関する広報のための事業

- (1) くらしと測量・地図展の共催
- (2) いばらき児童生徒地図作品展の共催
- (3) 芝浦工業大学公開講座の共催

4. 会員への情報提供事業

- (1) e-支部報の発行 (年2回発行)
- (2) メールマガジンの発行(月1～2回)
- (3) ウェブサイト「測量情報館」、月刊「測量」への情報掲載

関東支部業務報告の概要

令和7年度 講習会等年間行事予定

行事等の名称	開催日	開催地	計画人数
第26回管理職研修会	4月21日（月）	東京都	30名
公共測量技術講習会 公共測量成果のまとめ方	5月21日（水）	千葉市	40名
「くらしと測量・地図展」 （「測量の日」東京地区実行委員会主催）	6月4日（水） ～6日（金）	東京都	－
第15回現場応用新技術研修会	6月26日（木）	東京都	50名
業務報告会及び講演会	7月15日（火）	東京都	－
第36回応用測量技術研究発表会	8月 5日（火）	東京都	50名
第36回測量経営者研修会	9月 4日（木）	水戸市	40名
地理空間情報セミナー 実務者向けセミナー（ビデオ講習会） ～三次元計測技術の活用～	9月26日（金）	甲府市	50名
公共測量技術講習会 UAVを用いた空中写真測量	10月7日（火）	横浜市	40名
地理空間情報セミナー 測量・地理空間情報技術者のためのアドバンスセミナー	10月24日（金）	高崎市	50名
公共測量技術講習会 ネットワーク型RTK法による基準点測量講習会	11月10日（月）	さいたま市	40名
公共測量技術講習会 三次元点群測量（WEB講習会）	11月26日（水）	宇都宮市	50名
芝浦工業大学公開講座 共催	11月 3日（月）	さいたま市	40名（予定）
第25回いばらき児童生徒地図作品展 （いばらき児童生徒地図研究会主催）	未定	水戸市	－

関東支部業務報告の概要

令和7年度収支予算

自 令和7年4月 1日
至 令和8年3月31日

収入の部

(単位：円)

科 目	7年度予算額 A	6年度予算額 B	差 額 A - B	摘 要
1. 事業収入	2,700,000	2,752,000	△52,000	講習会受講料
2. 雑収入	0	0	0	
3. 特別行事収入	0	0	0	
4. 支部運営費収入	1,417,000	1,392,000	25,000	本部助成金
合 計	4,117,000	4,144,000	△27,000	

支出の部

(単位：円)

科 目	7 年度予算額 A	6 年度予算額 B	差 額 A - B	摘 要
1. 事業費	2,739,000	2,454,000	285,000	講習会経費等
2. 管理費	1,219,000	1,548,000	42,000	会議旅費等
3. 特別行事費	118,000	119,000	△1,000	公開講座旅費等
4. 予 備 費	41,000	23,000	18,000	
合 計	4,117,000	4,144,000	△27,000	

(注) 支部専従職員1名(事務局長)の人件費(給料手当、法定福利費、福利厚生費等)及び支部運営費の一部(水道光熱費、借室料等)は、本部経費

 支部報告

関東支部業務報告会の概要報告

令和7年度 技術センター 業務計画

1. 検定業務の目標

令和6年度の基準点成果検定は、4,600万円の予算に対して4,405万円の売り上げであった。毎年売り上げ額が下がっている状況ではあったが、昨年度は目標額まであと一歩となったことから、令和7年度の目標は3,000万円とする。

地図成果検定は、1,600万円の予算に対して3,408万円の売り上げであった。目標額の2倍超の売り上げではあったが、関東支部で対応できず地図検査部（つくば）の検定支援をいただいたことから、令和7年度の目標は3,000万円とする。

2. セールスプロモーションの推進

- 1) 測量会社を訪問し、情報収集や意見交換を実施する。
- 2) 計画機関向け「公共測量講習会」を10月に甲府市で開催する。
- 3) 測量計画機関及び測量作業機関に対するセールス活動を通年で実施する。

3. その他

- 1) 測量技術に関する相談窓口を開設し、各種測量や検定に関する相談に対応する。
- 2) 関東支部が主催する講習会、セミナー等に職員を講師として派遣するとともに、当協会や関係機関の講習会、セミナー等を積極的に受講し、技術・知識の習得に努める。

関東支部業務報告会 講演会

令和7年7月15日（火）、日本測量協会（東京都文京区）研修室において、関東支部業務報告会講演会が開催され、次の2つの講演が行われました。

1. 「国土地理院の最近の取組」

講師：国土地理院関東地方測量部長
石山 信郎 氏

**2. 「測量専門学校の現状」**

講師：中央工学校工業第二教員室長
魚野 健太郎 氏

石山氏は、測量法・測量法施行令・測量法施行規則の改正や、測量資格制度の今後などのご紹介をいただきました。

魚野氏は、測量法に基づく測量養成施設としての測量専門学校の状況や、資格制度、人材確保の状況などをご講演いただきました。



講演のようす



編集後記



今年の夏は昨年にくらべても、さらに記録的な猛暑となり、国内最高気温が更新されるほどです。巻頭言で布施副支部長がふれていただけていますが、6月からは熱中症対策が義務化され、みなさまもその対策を講じていることと思います。災害級の暑さと言われる昨今、くれぐれもご自愛ください。

本号の特集は「AIの活用」として、測量や不動産ビジネスにおけるAI活用の事例をご紹介いたしました。生成AIはその活用が飛躍的に進んでいます。その一方で、嘘が含まれている可能性や情報漏洩の危険性などがあり、そのしくみを知り、必ず裏付けや根拠を確認するなど、上手に付き合うことが大切です。さまざまな活用が広がり、みなさまの事業で生産性向上につながることを期待するところです。

今後も、みなさまにとって有益な情報をお届けできるよう努めてまいります。

表紙の写真

高尾山「水のコース」

都心から近く人気の高尾山。6号路は「水のコース」と呼ばれ、水行道場の琵琶滝や岩屋大師を通る、夏におススメの沢沿いコースです。周辺では、台風被害や危険木処理のため、通行止めや一方通行などの規制が目立ちます。安全に注意して、山歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

写真・文 渡辺 智晴

原稿募集

新技術紹介、会社紹介、得意技術紹介の原稿を募集しております。(A4 1ページ) 原稿作成をお願いできる大学・会社の方は総務・広報部会までご連絡下さい。

* 掲載につきましては、総務・広報部会にて審査させていただきますのでご了承ください。



総務・広報部会 連絡先

〒112-0002

東京都文京区小石川-5-1

パークコート文京小石川ザタワー 5階

TEL 03-5684-3499

FAX 03-5684-3519

E-mail: kantou@jsurvey.jp

